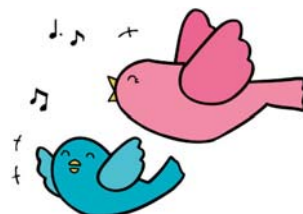




No5 一人ひとりを大切にした教育を目指して・・・

「特別支援教育基本計画」第4章 計画の展開・重点事業について

「子ども かがやきだより」第4号では、本市が取り組んでいく具体的な事業のうち3つの基本方向についてご説明いたしました。今回は、4つ目の基本方向「幼児期から就労までの一貫した支援」についてご説明いたします。詳しくは、教育センターのホームページに「特別支援教育基本計画」本文を掲載しておりますのでご覧ください。



基本方向に基づいた重点事業

4 幼児期からの一貫した支援のために

- ＜重点事業7＞子ども発達センターと連携した相談支援事業……市子ども発達センターにおける幼児期の発達相談と、就学後の教育センターにおける教育相談の連携を密にし、早期療育と学校教育の一元化を図ります。
- ＜重点事業8＞特別支援学校との交流推進事業……障がいのある児童生徒も地域の中で共に育つことができるよう、特別支援学校との交流活動や居住地校交流の推進を図ります。また、特別支援学校の分校設置の必要性について県教育委員会と検討を進めていきます。
- ＜重点事業9＞幼児期から就労までの一貫した支援事業……本市で作成するサポートファイルを活用し、幼児期から就労までの連携が円滑に行えるようにします。さらに、保健・医療・教育・福祉・労働等の関係者からなる連携協議会を設置し、児童生徒の自立を目指した支援が協力して行えるようにします。

現在、市子ども発達センターと、教育センターとが共同で、サポートファイルを作成しています。このファイルは、お子様をより深く理解し、さまざまな人達が協力して支援できるよう、幼児期からの成長の様子や医療・相談の記録などを差し込めるものになっています。

**本市においては、
一人ひとりの成長を大切にしたい指導を実現するため
小・中学校の指導体制（指導者）が充実します！**

★ 通常の学級という大きな集団の中では、時として子どもの可能性を伸ばしきれない場合があります。また、授業時間だけでは理解が不十分である児童生徒も、少しの時間と手立てを変えらることで可能性を伸ばせる場合もあります。

そこで、担任による授業をメインとしつつも、個別指導に重点をおいた学習の機会がもてるような場と時間の設定を本市独自で考えています。「算数の勉強をもっとわかるようになりたい」「リコーダーを吹けるようになりたい」など、児童生徒一人ひとりの夢を実現させてあげたいという願いを込めた指導の場が「かがやきルーム」です。

今年度は、まず31校の小学校で「かがやきルーム」を整備し、そこに専任の指導員31名を配置します。来年度以降も順次増やしていく予定です。

支援を希望する場合は、どうぞ、お気軽に各学校の担任にご相談ください。

★ その他にも、来年度から新たに、21名の特別支援教育支援員が配置される予定です。